

「モリイク」は、コープ未来の森づくり基金が、森と人、森づくりと人をつなぐ目的で発行している冊子です。

コープ未来の^{あした}森づくり基金レポート

モリイク

M O R I - I K U

森に行こう。
森で育とう。
森を、育てよう。

vol.05
Mar. 2013

編集後記

北海道の森づくり交流会の準備に追われる中、突然の訃報が届きました。元北大植物園園長で、モリイクに「樹の話」でコラムを寄稿していただいた辻井達一先生逝去の一報。

昨年の道新文化賞授賞式でお会いしたときから、すでに体調がすぐれなかった様子ではあり、「もしかしたら寄稿いただけないかも」という心配は編集スタッフの中にも漂いました。でも、「大丈夫だ！辻井先生は。」と、さしたる根拠もなく（むしろそれを信じたく）原稿を依頼させていただきました。原稿をいただいた時にはすでに病床にあられ、今回のモリイクが辻井先生の遺稿となってしまいました。

辻井先生のコラムはいつも楽しみにしていました。生物学的な樹の話にとどまらず、そこにまつわる人々の暮らし、文化、歴史が込められています。

そしてやさしく語りかけるような文体は、気さくな辻井先生のお人柄そのものでもありました。

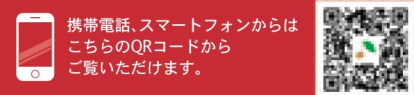
もっともっとたくさんの森の魅力を聞かせていただきたかった。

それが今で終わってしまうことが残念でなりません。

辻井先生のご冥福をお祈りいたします。

あすもりfacebookページ

<https://www.facebook.com/coop.asumori>



モリイク vol.05
2013年3月発行
発行元/ コープ未来の森づくり基金

VEGETABLE INK 100 この冊子は環境に配慮してベジタブルオイルインクおよび100%再生紙を使用して作成しています。



森と海、 巡る生命。

森は海を守り、海は森を守る。
その循環は、私たちにも。

モリイク

森から海へ、海から森へ。
水と空と生き物たちの大きなつながりの中に
わたしたちも生きている。

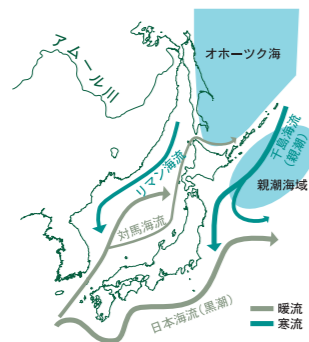
* contents *

- *02 コラム 森づくりのトレンド
未来のための市民による森づくり
- *04 特集1 北海道の漁協の森づくり
海の恵みをもたらすもの
- *08 木を使うことで再生する森
ユーリとビヨルク
- *09 もっと樹のことを語ろう
樹の話 シラカンバ
- *10 親子で楽しむ森のページ
森のキモイ キレイ
- *12 特集2 市民が森をつくる
あしたのFの森
- *15 森と人のコラム
「Fの森」のFは、未来のF、森の復活のF。
森への思いをこめたマップができました。
- *16 対談 森づくりが支える北海道の食と未来を語る
- *18 コープ未来の森づくり基金報告
北海道の森づくり交流会

Starting Column 森づくりのトレンド

あした 未来のための 市民による 森づくり

オホーツク海や親潮海域^{おやしお}は世界で最も豊かな海の一つといわれていますが(図)、その豊かさを支えているのがアムール川流域の森や湿原ということがわかってきました。詳しいメカニズムをここで述べる余裕がありませんが、世界有数の大河であるアムール川流域の湿原・森林から、鉄分が河川そして流氷の生成に伴って生じる海流によって運ばれ、海の豊



オホーツク海と親潮海域

かさの基礎となる植物プランクトンの増大に寄与しているのです。魚の生息をはぐくむ森を「魚附林」と称していますが、アムール川流域はまさに「巨大な魚附林」としての役割を果たしており、地球規模で海と森のつながりがあるといえます。(詳しくは白岩孝行さんが書かれた『魚附林の地球環境学』(昭和堂)をご覧ください)

ただ、森と海の関係は複雑であり、その関係が総合的・科学的に解明されているわけではありません。森がたくさんあればあるほど海が豊かになるといった単純な関係ではなさそうです。

森と海をつなぐのは河川です。河川も「豊か」でないと

両者をつなぐことはできません。そうした意味で、森林の中でも河川に沿って存在する森林～河畔林^{かはんりん}が特に重要な役割を果たします。河畔林は落葉などの栄養分を供給したり、水温を抑えるなど、河川の生態系に特に重要な役割を果たしており、河畔林が壊されると河川の生態系に大きな悪影響を及ぼします。

河川自体の健全性も重要です。人工的に流路が固定された河川に比べて、流れの早い瀬やゆったり流れる淵^{ふち}などが連続する自然河川のほうが豊かな生態系をもっていますし、ダムなどの構造物をつくるとサケなど河川を上下する魚類の移動を妨げて生物多様性を低下させてしまいます。また、河川を遡上するサケがクマなどの重

要なエサ資源となっていることや、産卵を終えたサケが死んだホッチャレが森林に栄養分を供給していることなどが明らかになっています。河川生態系の豊かさが森林生態系の豊かさにもつながっており、河川生態系の劣化は森林生態系にも影響を与えるのです。

さらに考えると、海に対しては河川を通じて陸上で行われるさまざまな人間活動が負荷を与えています。森を増やしても、私たちが日常生活の中で、また経済活動の中で水質を汚染させれば海に大きな悪影響を及ぼします。また、私たちは水を大量に利用して生活していますが、多くの場合それは河川にダムを建設して取水を行っており、これは先にも述べた

ように河川生態系、河川の水量・水質などに大きな影響を与えます。私たちの生活自体が問われているのです。

豊かな海をつくるために、植樹活動を進めることは重要です。ただ、以上述べてきたように森と海との関係は単純なものではありません。森林の中でも河畔林のように特に重要な役割を果たす森林があり、どんな森でも増やせば増やすほどよい、ということでもありません。また河川の健全性や、流域全体での私たち自身の生活や経済活動も海に様々な影響を与えています。森林、流域、海が多様な形でつながっているのであり、これを総合的に考えて保全することで生態系を豊かにし、さ

らには私たちの生活を豊かにすることができるのです。

そしてこのように総合的に保全を進めるということは多様な主体との連携を作らない限りは不可能です。

2013年度の小額助成の対象となった「NPO法人えんの森」は酪農家の方々の集まりですが、生産拡大によって環境が劣化してきたことを認識し、自分たちで魚道をつくったり緑の回廊づくりに取り組むなど、河川・地域環境の改善に向けて自ら汗を流しています。

こうした地道に地域で活動を行う人々と連携を広げて、上下流連携による健全な流域づくりを進めていくことが重要だと思えます。✦



柿澤 宏昭
(かきざわ ひろあき)

北海道大学
森林政策研究室 教授

コープ未来の森づくり基金 運営委員長

1959年神奈川県横浜市生まれ。北海道大学大学院農学研究科修士課程修了。現在、北海道大学農学部森林政策研究室教授。持続的な森林管理を多様な人々の協働で支えるしくみづくりをテーマに研究を行っている。また、欧米、ロシアなどの森林管理政策にも詳しい。主な著作に『エコシステムマネジメント』(築地書館)。2008年より「コープ未来の森づくり基金」運営委員長を務める。



海の恵みをもたらしもの

私たちが享受する豊かな海の恵みはどこからやってくるのか。海の恵みを守る森づくりとは何か。

森が海を育て、海が森を守る。

イラスト:エトボン社

-海と森のつながりとそれを守る漁業者たち-

イラスト 森と海をつなぐ栄養の循環

森からはじまって海を豊かにし、川を伝って森へと戻ってくる循環をイラストにしました。①～⑥までの数字を追って、森から海、海から森へと栄養分は循環していきます。



①落ち葉、昆虫など、森の栄養

⑥クマなどの動物の糞になって森へ

②川の魚や水によって海へ

⑤サケやマスによって川を上る

④③の生き物を食べる遠い海の生き物が豊かに(サケ、マス、マグロなど)

③川の近くの海の生き物の栄養に(コンブ、ウニ、カニなど)

森と海の、大きな物質循環に気づこう。

「日々の食卓に上がる魚を、森が育てている」。森と海の大きなつながりの関係が、最近明らかになってきました。それは、森と海が、川や遡上する魚を通じて養分をやりとりしているという、自然の大循環。

森からは、川に落ちた落ち葉の養分が水に溶け出したり、森で育った虫たちを魚が食べたりして物質が溶け落ちます。その物質が川の水と魚などの生き物たちを介して海に下り、海藻やプランクトンを育む養分となり、海を豊かにしているのです。

一方、海からはサケなどの魚の遡上によって多くの栄養分が陸地深くまで運ばれます。これを食べる森の動物や鳥たちの糞によって、さらに森の奥に養分が戻されて、森を豊かにしていきます。

川と水と生き物たちを通じて、こんな大循環が森と海の間には確かに存在します。そのつながりは、私たちには大きすぎて見えにくいものなのかもしれません。しかし、

森をつくること＝海を育て、その循環を守ることだということは、森づくりに携わる私たちが認識しておいて良いことなのかもしれません。

古くから行われる漁業者による森づくり。

そしてその大循環と、海と森の関係に以前から気づいていたのが漁業者たちでした。とは言っても科学的に知っていたわけではありません。森を伐採したら海が荒れ、魚がいなくなったなど、経験的に気づいたことだったと言われていました。このような背景から、かつては漁業を営む地域では川の環境を守る河畔林などを「魚附林」と呼んで古くから大切に守ってきました。

しかし高度経済成長期を挟み、日本でも沿岸の漁獲量が大きく減少しました。これには産業や生活の排水が川や海を汚したこと、開発によって森林が伐採され、河川の環境が悪くなったことなど、たくさんの要因がありました。

そこで、漁業者は再び森に目を向けて木

を植え始めたのです。

北海道では、1988年の「全道漁業協同組合女性部連絡協議会」の30周年大会から全道の取り組みとして、各地の漁協で森づくりが始まりました。

「100年かけて100年前の浜を」をテーマに続けられてきた「お魚増殖やす植樹運動」は25年を迎え、今までに93万本を超える植樹を行ってきました。この植樹活動にはコープさっぽろも参加するなど協力しています。

海に生かされる漁業者。その先にある森との関係。海に出るのが仕事の漁業者の皆さんは、どのような思いで森に樹を植えるのか、コープさっぽろも植樹を通じて支援する野付漁協に話を聞きました。



野付漁協 information

〒086-1643
野付郡別海町尾岱沼港町179-2
0153-86-2211
<http://jf-notsuke.jp>



25年経っても成果は目には見えない。
 だけど、未来のために信じて木を植え続ける。
 その思いの向こう側には、
 野付の自然の恵みを大切にして
 生きてきた漁業者たちの
 「ゆずりと協同」の思いがありました。

漁業者が森に樹を植える 森づくりへの願い



野付湾の風物詩、打瀬船でのホッカインマエビ漁は、エビの生息地であるアマモ場を痛めないようにするため、動力を風に頼る打瀬船は効率が低く、天候にも左右されるが、そうして資源を大切に守っている。同じように、大切な海を守るために森づくりを続け、地域や社会から注目を集めるようになった。

きっとはなれられない。 漁協と森づくり。

「森づくりと漁協とは永遠に離れられないんじゃないだろうか。成果はまだ見えないし、どんな形に出て来るかわからない。だけどいい方に行く信じてやっているよ」。そう話してくれたのは野付漁業協同組合の山本さん。

野付漁協の森づくりが始まったのは昭和63年の全道漁業協同組合女性部連絡協議会の30周年大会から。その背景には全道的に漁業全般の漁獲量が減少した、という背景があります。

「今だって減っているよ。それが川と直接関わりがあるかはわからないけどさ、今は川があって海がある。そう考えるのが普通だから」

野付湾がある別海町は戦後開拓で広大な森林を伐採し、牧草地を拓いてきました。土砂や牛の排泄物は、根釧の大地に網の目のように巡っている河川を通じて野付湾に流れ込んでしまいます。こうして荒れた海を元に戻すためにも、



野付漁業協同組合 参事
 山本 国男さん

野付漁協の森づくりは始まりました。

今では漁協で購入した土地420haを中心に、コープさっぽろをはじめ、いくつかの生協団体・地域の農協などと手を取り合い、根釧地域に森づくりの理解と活動を広げています。

ゆずりと協同。その精神が 森づくりも支えていると思う。

25年を迎えた森づくりでも、420haの中で手つかずだった伐採地や元牧草地の多くは、まだ植樹の手は届いていません。そして漁獲量が上がったり、川を遡上するサケやマスが増えたわけでもありません。

「目に見える成果はまだないよ。それは次の世代じゃないかな。でもさ、陸でできることっていったら、漁業者には木を植えることくらいしか無いんだよ」と山本さんは言います。劇的に改善するわけではない、改善するにしても森ができるのは100年も200年も先。それでも信じて植樹の運動を続けてきたのは、自分たちの手で資源を大切に守ってきた野付の漁業者の心意気があるようでした。

「貧しかったんだよ。そのころ、他の地域みたいに、外洋に出ていく大型漁業で稼ぐわけではないんだから」。野付湾という広くはない漁場の資源を分け合う

ために、定置網の場所を融通したり、所得の低い漁業者には他の漁法を勧めるなど、漁協を中心として、みんなが野付の限られた資源で暮らしていけるように分け合った。それが、今の野付漁協のテーマである『ゆずりと協同』へとつながっていったといいます。

また、限りある資源を守り、利用していくために早くから漁業資源の管理のための工夫も始めました。ホタテの稚貝を育てて海に放流する半養殖のほか、野付湾の夏の風物詩である打瀬船のエビ漁は労力がかかり、天候にも左右される漁法ですが、アマモ場を守るためにあえて行っています。

こうした、限られた資源とそれを育む海を後世まで残していきたいという野付の漁業者たちの気質と心意気もあり、漁協の森づくりは引き継がれてきました。

「植えるだけでなくて育樹も必要でしょ。これは別海の森林組合に委託しているんだけど、森づくりなんてやっぱりある程度の経済的な基盤が漁協にないとできないよね。それはもう、漁協の組合員さんたちの努力のお陰でもある」。

漁業者と漁協がお互いに『ゆずりと協同』の気持ちで大切にしている野付の森づくりは近年、社会から高い評価を受け、各種の賞(※)を受賞しています。

森づくりからつながり生まれた 地域の新しいカタチ。

もうひとつ、漁協の森づくりが生み出した大きな成果があります。

「酪農家と漁業者は、昔は仇同士みたいな感じだった」。漁業者たちは当初、海を荒らす原因を、土砂や汚水を川に流してしまう酪農家に求めたのです。

「ずっとそれじゃあ、何も改善しないんだ。そういうわけにはいかない。そういうことを責めたってどうしようもない」。と言って地元別海町や隣の町の中標津町の農協や行政、地域の酪農家と長い話し合いを経て、少しずつお互いの理解を深めてきました。

「野付湾に注ぐ大きな川に当幌川というのがあって、その源流部は中標津町でね、木が生えてないから崩落してしまった。そこに木を植えられるようになるまで

5年交渉を続けたよ」。そして今では農協・漁協の青年部が交流しながら毎年植樹を行っているそうです。

「それだけじゃだめでね、同時に乳製品と水産物を組み合わせた商品を作って農協のお店で売ったりしている。けっこう評判いいみたいだよ(笑)」。相容れなかった者同士が理解を進めて、森づくりを中心にして新しいつながりが生まれ、広がっています。

「野付漁協が木を植えているっていうことは、周囲の農協も感じているんだよね。使っていない土地には木を植えていきます、と言ってくれたり、農協も木が大切だということは理解してくれているし、森づくりが漁業も農業もつなげていく。つなげていかないと無理だし、続かないよ。海の成果はまだわからないけど、つながりや意識が農協や酪農家にも生まれて、理解してくれたのは大きな成果だと思う」。

ってやっているよ」。森づくりが生み出した、その地域で自然とともに生きている人々のつながりの意識。それはこれからその土地に暮らす人々にとって大きな安らぎの素であるに違いありません。森づくりを進めるのは、野付という地域の自然の中で、限られた資源を大切にしながら生きていきたいと願う、地域のひとびとの思いでもあるのかもしれない。

人と人、人と未来をつないでいる 森づくりのもうひとつの役割。

森と海は、そのつながりの腕の中に多くの生き物を抱いて、私たちの目に見えないくらいの、大きな循環を描いています。その中で、野付の漁業者と酪農家のように、今、人と人をつなぎ、新しいものを生み出す役割を森づくりが担っている。それは、私たちの森づくりにもつながっていることなのだと感じさせてくれます。✿

漁業者みんなで取組んでいます。森づくり。



北海道漁業協同組合連合会
 環境部 石川 清さん

北海道では、かなり以前から一部の地域で漁業者が植樹活動を行っていました。昭和63年からは漁協婦人が全道的な運動として「お魚殖やす植樹運動」に取組み始め、今では植樹本数が93万本を超えるまでになりました。苗木は自ら調達してしま

したが、道森林組合連合会、北海道、水産庁と、様々な機関から苗木支援もいただけるようになり、4年前からは、コープさっぽろの支援も受けています。信漁連、漁連を初め、漁協系統組織もこの活動を応援しています。最近では、研究者から、植樹による

お魚殖やす植樹運動ウェブサイト
<http://sakana-fuyasu.jp/top.html>

森・川・海の連携が、川や海的环境や水産資源に有益であるとの研究成果も出されています。

北海道の漁協組織は、浜の母さんを先頭に「100年かけて100年前の自然の浜を」取り戻すために、これからも頑張っていきます。

植える→育てる→使うことで保たれる森林。
木を使うことも、森を守ることに繋がっている。

木づかい
Column

北欧では、森がいつもそばにある。「森へ行こうよ」という誘いの言葉は、とてもよく聞き、どんなに美しい詩よりも心に残った。そう話すのは、「白樺かご」作家のユーリさん。「ユーリとビヨルク」の名で白樺かご制作と、その作り方を伝える活動をしています。

北欧の人々は森に行く時間を何よりも大切に。何をしに行くというわけではない、コーヒーを一杯飲むだけ、木々の間でリラックスするだけ、ということもある。「森に行く」という行為が当たり前で、それだけ森が人の心の安定に大切。北欧に滞在した数年間、そんな人と森とのつながりの深さに驚いたといいます。

そんな北欧の人々の暮らしの中に、どの家庭でも使われているのがシラカバの樹皮で編んだかご。昔から生活の中で普段使いされ、代々受け継がれることもあるというこれらのかごは、森とともにある暮らしの象徴なのかもしれません。いつも見ている美しい樹がかごになることや、その森や樹の物語、かごから見える森の魅力があることを知り、シラカバかごの作り方と、森とのつながりを学び、伝えていきたい。「ユーリとビヨルク」の活動は、そんな思いから始まりました。

北欧のポピュラーな樹であるシラカバは、枝葉や材、皮まで生活の中で深く利用されています。しかし、北海道では「どこにでも生えるし、伐ってもお金にならない。おまけに花粉症で迷惑してるんだ」。そんな印象を持っている人も少なくないかもしれません。

「シラカバを見ていると、人の人生を思うんです」。

荒れ地に根を下ろし、他の木々が根を下ろす環境を作るのがシラカバの役目。そうして長くもない一生を他の樹にゆずって終えていく。その体は木材にして

も好まれないし、薪にしてもすぐに燃え尽きてしまう役立たず。「でもね、皮だけはどんな樹よりも強いんです。だから、弱い人にも必ずひとつは強い部分があって、後世のためにできることや残せるものが必ずあるものだって、生き方を教えられたんです。私にとっては、それは丈夫で美しい白樺かごをつくること」。

森と人の暮らしをつなぎ、自分の生き方を教えてくれたシラカバ。その樹といつも一緒にいたくて、ユーリさんはシラカバが豊かに生える北海道へ移住しました。「北海道で暮らすようになって、都会では見えにくい物事の輪郭や価値がはっきりと見えるようになりました。四季の森は、そういうことも教えてくれます」。

森に身を置くことで見えてくること、教えてくれることはとても多く、森と身近に暮らすようになってしっかりとそれを感じると言います。

「だから、ワークショップでも本当に伝えたいのは、かごの作り方というよりも、森に行こうよ、ということなんです」と言うように、ワークショップでは外に出かけて森や樹に触れることを大切に、話すこともシラカバのこと、森のことが多いのだとか。「何の理由が無くてもいいんです。森に行くきっかけを伝えていきたい」。森を感じてもらうことが、人に伝える大きな目的なのだそうです。

だから、ユーリさんの白樺かごは、しっかりと柔らかく、手に抱くと「ホッ」とする安心感があります。かごを手を抱いて、この樹が生きていた森にいる感覚を思い起こしてほしい。森に行かなくても森を感じてほしい。北欧のように森と暮らしがいつも共にあること。その願いを、ユーリさんの白樺かごは、やさしく伝えてくれています。✦

ユーリとビヨルク
ユーリさん

スウェーデンで人と森のつながりの深さを目の当たりにし、その中でシラカバかごに出会う。帰国して「白樺かご」づくりとその作り方を伝えるワークショップを行う。
2012年3月に北海道に移住。
<http://www.cocoronet.net/>



juli
och
björk
ユーリとビヨルク

「森に行こうよ」
シラカバを通して
森と人のつながりを
伝えたい。

Column
植樹の図鑑

知っておこう。私たちが植える木にも
物語がある。

樹の話

その3 シラカンバ

シラカンバはカバノキ科の高木で、よくシラカバと呼ばれますが、和名はシラカンバです。漢字は白樺と書きます。この仲間は世界の温帯から亜寒帯に掛けて広く分布していて、火山灰地などの乾燥地から湿原まで幅広く見られます。

カンバ類は、そもそも肥料分の無い、痩せた土地でもよく育つので、逆に土地条件に贅沢な樹木が嫌がって育たないようなところでも生える、と言ったほうがいかもしれません。

それともう一つ、ことにシラカンバの仲間たちは、明るい、日当たりが良いところを好みます。こういう性質の木を陽樹と呼びますが、その代表格です。

ですから山火事や台風などの大風害で、森の木が倒れたところや伐採跡地などに生えて来ていち早く林を造る種類の一つでもあります。林の中に新しく道路が設けられたような時に、道の両側にシラカンバ並木が自然にできたりするのもその例です。

名前の由来になったのも、その樹皮が白くて目立つからですが、近い種類のダケカンバも若木の頃にはなかなか美しい白い肌を見せます。ただしダケカンバのほうは歳を重ねると少々、粗い感じになり、いささか豪壮と言いたい風情になりますが。

このダケカンバを含めてシラカンバの仲間たちは、ヨーロッパカンバなども同じくその白い樹皮がたやすく剥げることと油成分を持つことによって、大昔から着火の材料として使われてきました。漢字で「樺」と書くことは先に述べましたが、結婚式のことを「華燭の典」と言いますね。この「華」は元々火燭の字でした。つまり明るい樺の木の松明であかあかと照らすのお祝いの意味です。

私も、松明ではありませんが、結婚式のお祝いの席で樺の樹皮を燃やしてみせたことがありました。「これが本当の華燭の典です」と言って。

シラカンバは成長が早くてすぐに大きくなり、20年もすれば立派な林を造ります。1本や2本だけ植えるよりは、まとまった林に仕立てると見事です。

そういうことから、「シラカンバは寂しがり屋だ」と言います。仲間たちがたくさん居ると生き生きとしているように見えるからでしょう。庭に植えるなら少なくとも数株はまとめて植えるといい。葉が風で触れ合って、何か、おしゃべりでもしているように聞こえます。

シラカンバにも枝垂れカンバがあります。これはヨーロッパに多くて、葉も細かいものがたくさん付きますから、その小枝は北欧のサウナで身体をびしゃびしゃ叩くのに使われます。日本のシラカンバでは少々葉っぱが大きすぎるのです。

シラカンバはきれいですがその花粉は花粉症の原因になるので嫌われます。春先のまだ残っている雪の上を黄色く染めているのがそれです。しかし、ちょうどその季節はシラカンバの樹液が一番よく出る頃です。樹液はほのかに甘く、糖分を含んでいて爽快な味わいです。北海道では美深町などで採取されています。

シラカンバはあまり太くまで成長しませんが、仲間のウダイカンバ(マカバ)は、材が優れていてフローリングや壁材、家具材になります。それにはマカバがカンバ類の中でもっとも大きくなるという理由もあるでしょう。シラカンバよりはるかに寿命も長くて100年以上にもなるのです。✦



ウダイカンバ
Betula maximowicziana
ハート型で大きな葉。
樹皮も銀色になる。
マカバとしても知られる。

シラカンバ
Betula platyphylla var. *japonica*
葉脈の数は
6~8対。

ダケカンバ
Betula ermanii
葉脈の数は
7~12対。



元 北大植物園園長 辻井 達一

'31年東京生まれ。'59年北大大学院を終えて農学部附属植物園で助教授、園長。この間、パタゴニア、アラスカ、ネパール・ヒマラヤ、シベリア、カナダなど、もっぱら湿原植生を研究テーマとする。'88年農林生態学研究室教授。'95年、北星学園大学教授。'97年、北海道環境財団理事長。日本国際湿地連合会長などを務め、北海道の環境保全に尽力。2013年1月に81歳で逝去。
著書：湿原、北海道の湿原と植物、日本の樹木、続・日本の樹木など。



のぞいてみたら何かがいるよ。
ちょっとキモいわない？
よく見るとおもしろい！
さがしてみよう、森のいきもの。
ほら、いのちのふしぎにあふれてる。

ネズミの仲間を知ってるかい？

足あとを
おいかけて
彼らのことに
くわしく
なろう！

森のネズミは野ねずみ。
町で見かける家ねずみ。
モグラの仲間はトガリネズミ

北海道のネズミには

モグラの仲間

モグラの仲間
の間にネズミと
呼ばれる



トガリネズミの仲間

オオアシトガリネズミ
エソトガリネズミ
ヒメトガリネズミ
トウキョウトガリネズミ

トウキョウトガリネズミ

世界最小級の哺乳類。体重約2g、頭からお尻までの長さは5cmほど。日本では北海道にしかないめずらしい種だよ。名前に東京とついているのは最初に標本にされたとき、昔の呼び名「Uezo (蝦夷)」を「Uedo (江戸)」と書き間違えたからじゃないかと言われているんだ。地面にはあまりもぐらせず、草に登ってじっとしていることのあるちょっと変わったトガリネズミです。

よく「モグラを見た！」と言われる動物の正体は、このトガリネズミ類。北海道にモグラは生息していない。だからモグラの役割をその仲間であるトガリネズミが果たしているんだ。北海道にいるのは4種類。森を歩いていると、よくトガリネズミの死体を発見する。野ねずみたちはすぐさまの動物の糞になるけれど、トガリネズミの死体が残っている理由は、まだわからない。でも、キツネやミンク、フクロウ類、マムシに食べられていることはわかっているよ。

ネズミを探してみよう

夜行性のネズミを見つけるのはおもしろいけれど、足取りの痕跡は見つかるよ。雪の上や、雪がとけてくる春先は探しやすいよ！

トンネルを作ってその中に草を入れる。雪がとけると迷路のような道が見えるよ

雪の上や木の根元にウンコを発見！

クルミの袋の裏中に穴が開いているのはアカネズミが食べたあと

トガリネズミ エソヤチネズミ アカネズミ シッポの長さがちがうよ



アカネズミの仲間

おもに種子や昆虫を食べる。耳が大きい。明るい茶色、シッポの長さは体と同じか、それ以上。

エゾアカネズミ
カラフトアカネズミ
ヒメネズミ



ヤチネズミの仲間

おもに種子や木の皮を食べる草食性。耳が小さい、くすんだ茶色。シッポの長さは体の半分以下。

エゾヤチネズミ
ミカドネズミ
ムクゲネズミ



森や草原など自然の中で暮らしているのは野ねずみ。町中で見かけるのは家ねずみと呼ばれているんだ。

ネズミのこともっと知りたい!!

日本の哺乳類
日本の動物大百科

フィールドベスト図鑑
日本の哺乳類(学研)

日本動物大百科I
哺乳類I(平凡社)



良い？悪い？ネズミの役割

エサのない冬、エゾヤチネズミは木の皮を食べて木を枯らすので害獣と呼ばれ、大発生したときは薬で駆除されているんだ。でも彼らはキツネやフクロウなどのエサでもあるので、ごく少なくなると動物たちは困るんだよ。エゾアカネズミなどは、木の種をエサとして貯め込んだり、運んだりして、食べなかった種が発芽。結果、森を育てる手伝いになっている。どのネズミも、森にちょうどいい数なら役立つ存在なんだよ。

ハツカネズミ
ドブネズミ
クマネズミ

野ねずみをよく観察していると、一頭一頭性格が異なることがわかります。ちょっと家族に似た性格のネズミがいると想像してみてください。ネズミは嫌い、ヒゲマは怖いと思うと一つの性格しかないように思いますが、律儀なやつもいねば、ドジなやつもいて、よく知るととても親近感が湧きます。「自分に似たやつはいないか？」と思いつながら生き物探しをしてみると、これまでとちがう発見が出来ますよ。

森にすんでいる。 町にすんでいる。

ネズミを見つけたら...

森ではネズミやトガリネズミの死体を見つけることもあるよ。でも絶対に素手でさわってはいけません。死んだネズミの体にはたくさんの細菌がついているからね。さわるときは使い捨ての手袋をすること！そして手洗いも忘れずに！

★大人の方へ エキ/コックスに感染しているネズミに触れても人には感染しません。感染したネズミを食べたキツネや犬などの糞を触った時に、卵が手足などを介して口から体内に入る場合だけに感染のおそれがあります。それよりも、死体には細菌がいっぱい繁殖しているため、傷口から細菌が入って病気になることもあります。触るなら使い捨ての手袋を利用して下さい。基本は予防。手洗いは忘れずに。

お話を聞いた人

河原 淳さん

写真提供・取材協力

高校教員・大学非常勤講師・環境調査などの経験を生かして、現在、浜中町と別海町の酪農村を中心に「住みたい・住み続けたい」地域づくりを行っている。NPO法人えんの森 <http://www.least-shrew.jp/enmori/> トガリネズミの部屋 <http://least-shrew.jp/shrew/>

新岡薫/エトブン社

北海道のイキモノをテーマに絵と文を描いているイラストレーター。トカゲと鳥とエゾシカが気になる。猫とキツネを見たら追いかける。クモはちょっとコワイ。好きなことは森と動物園と水族館の散歩。札幌出身。ブログ <http://etobunshaimyezo.blogspot.com/>

宮本尚/きたネット

森好き、ヘンなイキモノ好きは、オホーツク海を眺めて育った子どもの頃から。最近ではキノコのトリコです。北海道の森の歌を作りたいと思いつつ、なかなか時間がとれないのが悩みのタネ。今年こそ！ Facebook <http://www.facebook.com/nao.easter>

F-zone workshop

ワークショップの
向こう側に見えた

2013年からの植樹地である
Fゾーンの森づくり計画を、
あすもりサポーターでつくる。
そのワークショップの様子と
みんなで作った「Fの森」の
設計図をご紹介します。

あしたのため Fの木々

おんがくかい
したりお、
おいしいものたべたりお、
どうぶつと
あそんだりできるもりに
したいのぞ。

Fゾーンは、 みんなの手で

自分の好きな森をつくれる
なんて、どんなに楽しいでしょ
う。森づくりの設計図をみんな
で考え、描く。Fの森は市民によ
る森づくりをコンセプトに
2012年から始まった、あすも
りサポーターによる森づくり
の新しい試みです。

コープ未来の森づくり基金
が森づくりを始めて5年。当別
町の道民の森神居尻地区で予
定されていた森づくりの区域
(Aゾーン2.0ha)は5回の植樹
によっていっぱいになりました。
そこで、次の森づくりの区域
(Fゾーン)はどのような植樹を
していったらよいだろう、と考
えました。

今まではコープの事務局が
植樹する樹種やエリアを決めて、
組合員さんに植えてもらう、と
いうスタイル。つまり、組合員
さんは植えるだけの役割だっ

たのです。
でも、組合員さんによる森づ
くりなら、組合員さんがどんな
森にするか、どう植樹をするか
を考えて決めてもいいのでは
ないか。むしろ、そうして森づ
くりに関わって未来を見
つめた森づくりをしてほしい。
そんな思いから、2013年か
ら植樹が始まるFゾーンのワ
ークショップは始まりました。

じっくり理解し、 考える森づくり。

おおよそ半年をかけて全6
回にわたって行われたワーク
ショップは、Fゾーンの現状を
フィールドワークによって認
識し、森づくりの実際を学び、
体験し、そしてどんな森にし
ようかを自分たちで考える、と
いう流れで進んでいきました。

参加者の皆さんは、最初はと
まどいつつもFゾーンの地形を
苦勞して歩き、地勢や植生を体

で覚えていきました。
それを基に、テーブルに広げ
た地図を前に、で未来の子も
たちのためにどんな森にして
いきたいのか、どんな森なら
100年前の森に近づくのかな
どを話し合います。

「ここは見晴らしがいいから
こんな木を植えよう」「この湿
原はきれいなイトトンボがい
るから残したい」。実際のFゾ
ーンを歩いたからこそ思い浮か
べることができる未来の森の
姿を頭に、次の森づくりの地図
を描きます。

こうして夢のある話の中か
ら紡ぎ出され、参加者の皆さん
の未来への思いがいっぱいに
つまった森づくりの設計図が、
このワークショップの成果と
なりました。

2013年から始まる新しい
森づくりは、この設計図を基に
行われます。これからの森づく
りにもぜひご参加ください。

ワークショップ の軌跡

①フィールドワーク

「地図を読めるようになること」。
そんな目標を言い渡されてとま
どう参加者も。それでも、Fゾ
ーンの色んな地形を歩き、生き
物たちに触れていくうちに自然
と地図と地形が頭の中でリンク
します。講師の後ろをついてく
るだけだった参加者の皆さんも、
最後には自分の好きなようにフ
ィールドを歩けるようになりま
した。



背丈を超えるイタドリやぶを越えて、体で
Fゾーンのことを理解していきます。

②里山管理体験

実際に森林管理って、どういふものなんだろう。Fの森の木々が大きくな
った様子を想像しながら、除伐・間伐などの「森のお手入れ」を体験。
伐った丸太を運び出すのは大変でした。



里山管理体験。森が育ったら、
実際にはこんな作業も必要です。

③森づくり計画

歩いたFゾーンを、もっと身近に
感じるために、特長ある地形に自
分たちで名前を付けることから
始まりました。半年を通して見て
きたFゾーンを頭に思い浮かべ、
育った森でどんな風に過ごした
いかを話し合いながら、保全した
い部分、木を植える部分と決めて
いきます。
さて、みんなで考えた「未来に残
したい森」の姿は…。



参加者から Fの森への思い

ワークショップに参加したのは、樹を
植えるだけでなく、その後の手入れ
もしたかったし、森のことをもっとよく
知りたいから、ということもあるんです。
フィールドワークでは、地図を渡され
てね、私は方向音痴で迷子になるんじ
ゃないかと思ったけど、地図の見方を自分
なりに分かるようになったし、本州の森
との違いを知ったり、他の参加者の皆
さんの考え方に触れられたのがよかったです。
人間が生きていくために森をたくさん
伐ってしまったから、クマとかね、動物に
返してあげるような森になっていたら
いいなと思います。そして、小さい子が楽
しいこと、危険なことを学べるような、
でも自然は友達なんだってわかるような触
れあいができる、そんな森にな
っていったら素敵だな、と思
います。



WS参加者 北川 嘉子さん

講師から 一言

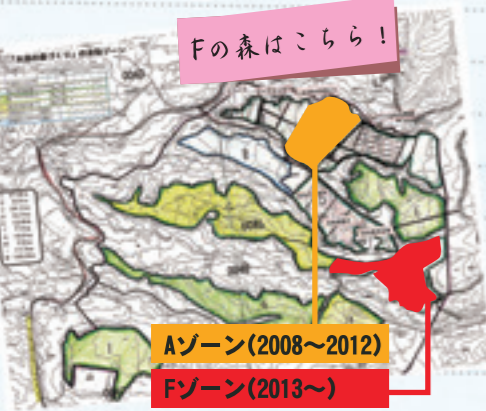
皆さんには、地図を読めることを
一つの目標にしてもらいました。
地図を読んで地形と照らし合わせ
ることができれば、その土地の成り
立ちや植生をつなげて理解できるよ
うになるからです。最初、地図を渡さ
れてとまどっていたみなさん、講師
の後ろを一緒に歩いて歩いていたの
に、最後には横にならんで自分の好
きな方向に歩くようになりました。
Fゾーンの形が自分の頭の中に入っ
たんですね。だから、どんな森にする
か話し合う時にもみんながイメージ
して、積極的に話し合っているのが
分かりました。

通称 マキさん です。

NPOもりねっと北海道
山本 牧さん



Fの森はこちら！



Aゾーン(2008~2012)

Fゾーン(2013~)

道民の森神居尻地区の植樹地。
Aゾーンは4年間にわたって植樹を行い、
いっぱいになりました。
2013年度からはFゾーンが新しい植樹地
となります。

ワークショップから生まれたのは
こんな森でした。

ステキな森に、育つといいな。

講師からの一言

私はその土地にあった樹種や、森のことを知ってもらおう、というアプローチを皆さんに伝えるようにしました。この森づくりをきっかけに、森や動物、自然のことを色々知ってもらえたらな、と思っています。100年前の森を目指し、動物たちに森を返すと言っているように、その土地の自然をちゃんと理解し、その土地の森に戻っていくような、そんな森づくりをしてほしいですね。

雪印種苗(株) 木村 浩二さん

講師からの一言

植えた木々が育って、森らしくなるのがだいたい30年後。そのころのFゾーンの森がどんな風に育っているのかがとても楽しみです。皆さんには、物語が思い浮かぶような森を考えてほしいと思います。森に入った人が、どんな景色や香りを感じながら森を歩くのか、そんな物語を思いながら森づくりをしてほしいし、実際に30年後にどんな森になっているのかをぜひ感じたいと思います。

雪印種苗(株) 鈴木 玲さん



参加者から②
Fの森への思い

千葉に住んでいた頃、竹やぶの手入れをしたのが始まりで、里山づくりに参加するようになりました。炭窯を手作りしてずいぶん研究して竹炭を焼きました。みんなで森のログハウスを建てたり、端材を使って家具やクラフトを作ったりして、それが人に喜ばれてね。里山づくりは楽しいと思いました。北海道には竹はないので、樹はどんなものなんだろうという興味から参加しました。自分たちの好きなように森を考えるという作業は夢があって、期待がふくらみます。北海道の森は大きくてつながっている。森と海のサイクルのつながりの中で、人が生かされていると感じることができます。そのつながりを感じて自然からの恵みを返していくのが大切だと思います。

Fの森は自然の森林に戻すことが目的だけど、最後まで関わって手入れをして、その過程で森の恵みや、レクリエーションを楽しんでいくのが大事。そうすることで、人とFの森はずっとつながり続けると思います。

WS参加者 吉川 和征さん

Fの森づくりの
基本方針

- 基本的にパッチ状に植える
- 植えるだけでなく、残すことも大切に
- 土地の環境に合わせた樹種を植える
- 花咲き実もなる楽しめる森
- 四季と色合いを感じる森にする
- 種から苗木を育てて植える



「Fの森」のFは、未来(future)のF、森の復活のF。
森への思いをこめたマップができました。

「森のデザインという貴重な経験ができた。この森と一緒に生きる時間を楽しみたい」「みんなといっしょに地図を描き言葉を交わし、イメージができていった」「森づくりは息の長い仕事、娘といっしょに参加していきたい」。これは「Fの森」森づくりワークショップに参加したメンバーの声です。

2011年春、あすもり事務局スタッフは、2013年から始まる新しい森づくりの候補地、当別町の道民の森生居尻地区の、Fゾーンに足を運びました。そこはかつての牧草地で、見晴らしの良いならかな丘があり、湿地や沢があり、多様な自

然の表情が楽しめる、森づくりのイメージがふくらむ場所でした。100年後、200年後、どんな樹が育ち、どんな風景が広がっているのかを考えるとワクワクしました。この気持ち、未来の森をデザインして育てていく楽しみをあすもりサポーターのみんなと共有したい。これがこの森づくりワークショップのそもそもの始まりでした。

「森をデザインする」ためにはどんな勉強や体験が必要だろうか。どんな森を未来に届けたいか、森づくりの方針を決める必要があるよね。そのためにまずは現地を知ること。どんな地形でどんな特徴があって、どんな樹が育つ環境なのか

調べよう。牧草地になる前の姿を想像しよう。樹が育つ条件を知るために、間伐も体験してもらいたい。

後半は地図にプランを書き込んでいく作業になるから、地図を理解できるようになってもらおう。トレイル(道)とゾーニング(区分)を考えて、それぞれのデザインを決めていこう。そうやって全6回のプログラムをつくってメンバーを募集したのが2012年の春。集まったのは、ほとんどが興味はあるけれど知識も経験もないという人でした。

最初の数回はとにかく現地を知ること、歩くこと。

5月、ネコノメソウが咲くこの小さな湿地は「ネコノメ湿地」と名付けよう。たくさん育っているこの樹は何？ヤチダモ、「谷地＝湿地」に生える樹だね。こうして自力で芽吹いた樹は残したいね。

7月、2mを超すイタドリがうっそうと生えてまるでジャングル。先頭が鈍で道をつくってくれるけれど、迷路のような藪で迷子になったらどうしようと必死に前の人を追う。正直すぐつらかった。夏草おそろべし！

9月、ミズナラの森で間伐体験。伐るのは育ちの悪い樹か、樹に光を当てるために他の樹にするか、森をじっくり見て選ぶ。樹を倒したら空にぽっかり光の井戸。見上げた空の形と切り株の形が似ていることに気づいた。

後半2回は札幌で森のイメージマップづくり。「もともとの植生を回復させな

ら、森遊びを楽しめる森にしよう」「低木、高木を配置して、奥行きや季節感を感じられるようにしよう」「トンボ湿地やカタクリの丘などは手を入れないで保全地としよう」「子どもたちに大切にもらえる森にしたい」。白地図に道が描かれ、植えたい樹が書き込まれていく。最初の頃は「森のことはわからない」と言っていた人からもどんどん意見が出る。子どもからも「ここでこんな遊びがしたい」という声が出る。テーブルに生き生きとした笑顔があふれる。「こんなにみんなが楽しそうなワークショップってなかなかないね」と講師の皆さん。

12月、2つの森のデザインができた。ひとつは「Fの森」全体構想図～森のイメージマップ、もうひとつは1年目に植樹するエリアの植栽計画マップ。

最後に、講師の牧さんが感慨深げにつ

ぶやきました。「1回目の現地調査のときは、みんな一列に後をついて歩いて、説明を聞いただけという感じだった。それが秋には、それぞれに自分が歩きやすいルートで、樹や草を観察しながら、未来の森のイメージを楽しみながら歩いていた。それを見て、このチームは森のデザインができるまで成長したと確信したよ。楽しいワークショップだったなあ。」

Fの森のデザインはまだ完成していません。2014年以降の具体的なプランは今後、みんなで作っていくことになりま。森をつくってみたいと思う方はいつでも森の仲間になれる。まずはこの春、この場所を歩いてみませんか？ワークショップの仲間が皆さんをご未来の森に案内します。✿

オホーツク出身、東京での生活を経て、札幌市在住。コピーライター、心身障害児(者)の介護・マネジメントなどを経て、現在はきたネット理事のほか、「北海道エネルギーチェンジ100プロジェクト」の事務局長、シンガー・ソングライター。共生していた黒猫が昨年他界、もう1匹の20歳の猫と私は、ちょっと寂しい今日この頃。



対談 食と未来を支える 北海道の森づくりを語る

大見コープさっぽろ理事長 × 平賀北海道漁協女性部連絡協議会会長

コープさっぽろが応援する漁業者の森づくり。それを進める北海道漁業協同組合女性部連絡協議会が、2012年の道新文化賞を受賞。25年にわたる活動への思いや共に森づくりに取り組むコープさっぽろへの期待を、大見理事長と平賀会長が

北海道漁業協同組合女性部連絡協議会 会長 平賀 由喜子



生産と消費をつなげる 森づくり活動

平賀: コープ未来の森づくり基金からは、助成をいただいて、みんなの力にもなっています。2011年は農水省・環境省の「いきものにぎわいコンテスト」、2012年は北海道新聞社「道新文化賞」をいただいて、なお力強く活動していけたらと思っています。

大見: 水産部長だったときに漁協さんの水産加工場を見て回って、北海道の水産資源の話になりました。その時に野付漁協の栽培型漁業の資源管理の取り組みの水準の高さに感動したんです。生体数の測定を恒常的に行ってどう管理して資源を守っていくか、そういうことをしっかりやってらっしゃって。なおかつ協同組合のテーマが「ゆずりと協同」と書いてある。そこにとても感動しましたね。

戦後日高で森林伐採によって海が荒れ、水産資源が一気に減ったことなどからも、自然の再生の恵みと海の恵みに密接な関係があるということにははっきりしていて、陸が豊かにならないと海は豊かにならないんです。

2008年のコープさっぽろの総代会でレジ袋有料化の議論をしました。それから、レジ袋を1人辞退につき0.5円を組合員さんに還元し、0.5円を積み立てて、もっと積極的に北海道の自然環境を守る基金を作って、環境づくりの団体に使ってもらおう、ということからコープ未来の森づくり基金は始まったんです。

コープさっぽろの組合員さんは

都会に住んでいる人が多くて、生産と消費が分かれてしまっています。そのことを消費者にどう理解してもらおうか。交流事業とか、さらに一歩先で産地の自然環境を豊かに豊かにしていけるか、ということを考えています。そういう意味で、樹を植えるという活動を2009年から本格的に進めています。

平賀: 私たちの中身は、安全なおいしい魚を食べてもらいたい、ただその気持ちで動いています。子どもにも料理教室をしますが、そういうときに、私たちが樹を植えているから、美味しい魚になっているということを伝えていきます。

そんな気持ちを皆さんにくみ取っていただければそれほどうれしいことはありません。

大見: 浜の母さんたちとよく交流させていただいていますが、お母さん達はとても元気がいいですね。

平賀: 本当です。てきぱきして、「会長！何やってんの！」とよく怒られますよ(笑)。漁業者自体も減ってはいるのですが、漁協女性連は今年8800人くらいになりました。漁業というのは大変忙しい。その合間で活動するのは苦勞なことなんです。でもだんだん若い人に代わってきて、はりきってくれています。これからの活動にも期待してください。

生産地を大切にしたい それが森づくりへの思い

大見: 植樹そのものはいつから始まったんですか？

平賀: 漁協女性連の30周年(昭和63年)からです。そのころ魚附林の大切

さがいわれ始め、漁協の指導もあって植樹を提案されて、それに参画して25年になりました。以前は工場や生活排水に加えて、酪農の排水が大きかった。

大見: 酪農のない羅臼や斜里は川がきれいでもすんね。

平賀: 私たちはコープの森、女性部の森など、たくさん森を作っています。最初の樹はもうずいぶん大きくなって森にも水も湧き出したと言われていて、効果が現れていると確信して、一步一步進めています。

森づくりへの応援、これからも、ずっと

平賀: 漁師は「根こそぎ獲る」というイメージがあるみたい。獲っては自分だけの物にしてしまう、せこい、根性が悪いとか。

大見: でも、野付漁協のテーマ「ゆずりと協同」には「へ〜」と思いましたよ。

平賀: 限られた資源をゆずりあいと協同で分け与えて、一人の貧乏人も一

道新文化賞の賞状とともに記念撮影。漁協の女性部の活躍や、森づくりへの思い、野付の漁業者について語った平賀会長(左)と、漁協の森づくりへの協力を約束した大見理事長(右)。北海道の資源と食のつながりのためにも、森づくりは重要だと語り合いました。



人の金持ちもなくなるような、そういう組合が北海道にはいくつもあるのを忘れないでほしい、そんな気持ちでやっている活動なんです。この活動は川と森と環境に貢献しています。川は漁業、森は林業。農業にも貢献しています。私たちこそ、ほめられてもいいような事業をしているのですけれどね(笑)。

大見: でも、これは100年、200年のスパンですよ。どう継承していけるかということが勝負だと思いますよ。

平賀: 25年しか経っていませんから。漁協の森づくりのテーマは「100年かけて100年前の浜に」というものなんですけど、これを考えた人に敬意を表しますよ。

大見: 志が高いですよ。平賀: この活動を後に伝えるためにも、ご支援をよろしくお願いします。

大見: うちが元気な間はずっと続けますから、こちらこそどうぞよろしくお願いします。そして生協も使ってください(笑)。

生活協同組合コープさっぽろ 理事長 大見 英明



コープと野付漁協の森づくり 組合員さんとの森づくりでも野付漁協を応援しています。

野付漁協のエビやホタテがどのように生産されているかを見学した産地交流から始めて、2006年の第一回コープ漁業大賞を野付漁協が受賞したのをきっかけに、森づくりをお手伝いするようになりました。

今まではほぼ毎年森づくりに行っています。2泊3日で現地を訪れて植樹をしたり、資源管理型漁業の現場を見学

させてもらったりして、森づくりだけでなく、食の学びも大切にしています。野付は風が強くて、植樹や育樹は大変。漁協の女性部の皆さんを中心に進めている森づくりは、将来にわたっておいしい海産物を消費者に届けたいから。この森づくりは組合員さんが生産現場を知り、生産現場を守る取組みに関わる大切な活動です。これからも続けて応援していけたらいいな、と思います。



井上 久子さん(あすもりサポーター、野付の森づくりへの参加当初から関わる)

event

第3回 北海道の森づくり交流会

集まったのは、道内から森づくりに関わる170名以上！
広がりを見せる北海道の森づくりに必要なものは？



特別講演

里山再生へのキーワードとは

3回目を迎えた「北海道の森づくり交流会」。テレビ会議システムで道内の会場8カ所をつないで、森づくりの団体や興味のある170人の参加者が森づくりに広がり深みをさらに作っていきたく、交流を深めました。

今回は、特別講演に日本の里山づくりの第一人者である京都学園大学の中川先生から、森づくりに楽しく関わるためのお話いただきました。

楽しむこと。そこから生まれるつながり

中川先生は日本中で里山再生と、そこからの豊かなつながりを生み出してきました。ここでは、その秘訣が「楽しむこと」だと教えてくれました。

里山が放置されるようになって数十年、これから必要なのは若い人たちの力だと言います。その若い人たちを里山づくりに引き込む

秘訣こそ、楽しみだということです。

中川先生が実践してこられたのは、パウムクーヘンづくりや石窯でのピザ焼きなど。里山管理で出た木々でおいしいものを焼いて食べる。それが楽しむことの一歩シンプルな形からでしょうか。

また、里山づくりからの様々なつながりや活動の広がりにも注目してほしいといえます。森林管理で出た間伐材から作り出したアルプホルンは、本場スイスの交流を生んだり、大きなイベントとなるなど、森づくりから新しいつながりを生み出しました。

最近では里山と農家が密接なつながりがあるということを見出して、里山とともに農村の再生にも力を入れています。ご自身がフィールドとしている、大阪の北部、北摂の農村では、里山とともに田畑を再生して酒米を育て、地域を巻き込んで日本酒を作ったり、日本酒づくりから生まれる酒粕を商品化するなど、農村の活性化に取り組んでいます。

こうした里山づくりは木々の需要を探り、増やすことが大切。日本でも葬送で木綿のふとんや棺桶、火葬の際には薪を使うなど、潜在的な需要は十分にあるのではないかと指摘します。さらに、木炭などの生産・使用をふくらませて、里山の自然を守りながらうまく利用していくことを探っていく。

「こうした企業の儲けにならない新しい試みというのは、市民の活動の役割かもしれません」里山を楽しみ、生み出してきたものが新しいつながりを社会に生み出していく。

中川先生のお話は、里山づくりを続けるための秘訣といっしょに、新しい森づくりの価値を示してくれましたように思います。



中川 重年 氏

京都学園大学バイオ環境学部バイオ環境デザイン学科教授。広葉樹の森林・樹木を中心とした環境デザイン・利用を専門としている。大都市の背後にある雑木林のある北摂の山々をフィールドに活動。主な著書に「森づくりテキストブック」(山と溪谷社)、「森づくりワークブック」(全林協)など多数。

広がる、つながる、北海道の森づくり

中川先生の講演に続き、基金の助成団体の活動報告や組合員さんの森づくり活動の様子、そして2012年からはじまった道民の森神居尻地区Fゾーンの森づくり計画ワークショップによる「Fの森」のお披露目も行われました。

そして2013年度助成に決定した高額



2013年度の助成を受けた皆さん

助成3団体、小額助成12団体、計15団体の助成団体が発表・目録の贈呈が行われ、これからの市民による森づくりへの期待が手渡されました。

交流からコラボレーションへ

第二部では、中川先生のご講演を背景に、森でどんな楽しみを作り出せるのかをみんなで考えるワークショップを行いました。グループごとに考えるイベントはさまざま。森でおいしいものを食べる。お父さんだけで森の料理をつくる。親子で森の春さがしをする...など、楽しそうな森のイベントがたくさん出てきて、中には、すぐに

でもイベントに仕立てることができるような完成度の高いものもありました。

こうしたことから、実際に違う団体が協力してひとつの森を楽しむイベントが生まれるとどんなに楽しいでしょう。

団体同士のつながりが深まったら、北海道の森づくりはもっと大きく広がっていくのでは、そんな思いを感じる交流会となりました。

Sponsors

2012年度 コープ未来の森づくり基金 ご協賛を頂いた企業・団体様

コープ未来の森づくり基金は、企業・団体の皆様をはじめ、多くの方々に支えられています。

エコ商品協賛	UCC上島珈琲(株)	ヤマザキナビスコ(株)	日清食品(株)
(株)アクリフーズ	UHA味覚糖(株)	ヤマザキ醤油(株)	日邦製菓(株)
(株)サクラバ	アサヒフードアンドヘルスケア(株)	ヤマナカフーズ(株)	日本クラフトフーズ(株)
(株)スイートファクトリー	アサヒ飲料(株)	ユウキ食品(株)	日本ハム北海道販売(株)
(株)スギヨ	エスビー食品(株)	ユニチャーム(株)	日本生活協同組合連合会
イトウ製菓(株)	エバラ食品工業(株)	ロッテ商事(株)	日本製紙クレシア(株)
(株)チーリン製菓	オタフクソース(株)	伊藤食品(株)	日本製粉(株)
(株)テノヨ武田	オハヨー乳業(株)	井村屋(株)	日立コンシューママーケティング(株)
(株)ニチレイフーズ	カゴメ(株)	一正蒲鉾(株)	日糧製パン(株)
(株)パールエース	かどや製油(株)	越後製菓(株)	伏見蒲鉾(株)
(株)ブルボン	カネカ食品(株)	加藤産業(株)	福山醸造(株)
(株)ホクリヨウ	かねさ(株)	花王カスターマーマーケティング(株)	片岡物産(株)
(株)マルナカ	カルビー(株)	会津天竺醸造(株)	宝酒造(株)
(株)マルハニチロ食品	カルピス(株)	株式会社小原	北海道キリンビバレッジ(株)
(株)みずずコーポレーション	カンロ(株)	丸永製菓(株)	北海道コカ・コーポリング(株)
(株)ミツカン	キッコーマン食品(株)	丸大食品(株)	北海道漁業協同組合連合会
(株)ヤクルト本社	キユーピー(株)	丸美食品工業(株)	北海道森永乳業販売
(株)ロッテアイス	クラシエフーズ販売(株)	岩下食品(株)	(株)北海道乳業販売(株)
(株)ロバパン	グリコ乳業(株)	岩塚製菓(株)	北海道味の素(株)
(株)わかさや本舗	コープフーズ(株)	岩田醸造(株)	北日本フード(株)
(株)伊藤園	サッポロ飲料(株)	亀田製菓(株)	味の素ゼネラルフーズ(株)
(株)宇治園	サンラク農業協同組合	金城製菓(株)	味の素冷凍食品(株)
(株)永谷園	サンスター(株)	江崎グリコ(株)	理研ビタミン(株)
(株)紀文食品	サントリービア&スピリッツ(株)	合同酒精(株)	ホクト(株)
(株)菊水	サンヨー食品株式会社	三井農林(株)	伊藤ハムデリー(株)
(株)菊泉堂製菓	ジャパン・フリトレー(株)	三幸製菓(株)	春雪さぶー(株)
(株)極洋	タカノフーズ(株)	三島食品(株)	コンフェックス(株)
(株)栗山米菓	テーブルマーク(株)	三桃食品(株)	日本アクセス北海道(株)
(株)古清商店	ナカモト(株)	三菱食品(株)	(株)Palitac
(株)湖池屋	ニコニコのり(株)	森永製菓(株)	(株)江戸屋
(株)札幌キムラヤ	ネスレ日本(株)	正栄食品工業(株)	(株)ホクカン
(株)札幌バリエ	ハーゲンダッツジャパン(株)	赤城乳業(株)	プリマハム(株)
(株)七尾製菓	ハインツ日本(株)	雪印メグミルク(株)	国分(株)
(株)常盤堂おこし本舗	ハウスウェルネスフーズ(株)	大塚食品(株)	ニチロ畜産(株)
(株)新進	ハウス食品(株)	大塚製菓(株)	(株)ナシオ
(株)扇雀舎本舗	はごろもフーズ(株)	大日本除虫菊(株)	(株)山屋屋
(株)大森屋	ハナマルキ(株)	池田食品(株)	米久(株)
(株)東ハト	ハラダ製茶(株)	竹山食品工業(株)	ブライフーズ(株)
(株)桃屋	フジッコ(株)	中村商店	マルイ食品(株)
(株)入福福田商店	ブルドックソース(株)	津山製菓(株)	北海道ベンディング株式会社
(株)不二家	ベル食品(株)	東北みやげ煎餅(株)	株式会社北海道サンジェルマン
(株)北海道ポッカコーポレーション	マルカワ食品(株)	東洋水産(株)	エンバイアー
(株)北海道日水	マルコム(株)	内堀醸造(株)	ヤマモト水産食品(株)
(株)堀川	マルトモ(株)	日進製菓(株)	ヤマト製菓(株)
(株)明治	メルシャン(株)	日清オイリオグループ(株)	北海道酒類販売(株)
JT飲料(株)	やまう(株)	日清シスコ(株)	明治乳業(株)
	ヤマキ(株)	日清フーズ(株)	

協賛企業に聞いてみた。 応援しています コープの森づくり #4

サントリーフーズ株式会社

何か北海道を盛り上げることができないか、とコープさっぽろさんと話し合っただけで、お互いが協力しあって前に進めること、ということで、C・C・C富良野自然塾とコープさっぽろ組合員さんの植樹活動への協賛など、森づくりに協力させてもらうことにしました。

北海道の森は広大で、豊かで、しかもそれが暮らしの身近にあるというのがすばらしいと思います。森づくりだけでなく、これからはこうした北海道の自然のすばらしさをもっと日本や世界に発信していけたら素敵ですね。

北海道の森は広大で、豊かで、しかもそれが暮らしの身近にあるというのがすばらしいと思います。森づくりだけでなく、これからはこうした北海道の自然のすばらしさをもっと日本や世界に発信していけたら素敵ですね。



話してくれたひと サントリーフーズ(株) 北海道支社 森 圭章さん

サントリーフーズ(株) <http://www.suntoryfoods.co.jp/>

Present

アンケート&プレゼント

「モリイクvol.5」いかがでしたでしょうか。今後の紙面づくりのために、アンケートにご協力をお願いします。

- Q1 モリイクを読んだ感想をお聞かせ下さい。
- Q2 面白かった記事・つまらなかった記事はどれですか？ 右から3つお選び下さい。
- Q3 森づくりの活動に参加したことがありますか？(はい/いいえ)
- Q4 コープ未来の森づくり基金の活動へのご意見があればお聞かせください。
- Q5 取り上げてほしい記事のテーマがありましたらお書き下さい。

巻頭コラム(P2,3)
海の恵みをもたらすもの(P4~7)
木づかい(P8) 樹の話(P9)
森のキモイ・キレイ(P10,11)
あしたのFの森(P12~15)
森林再生コラム(P14) 対談(P16,17)



PRESENT!

アンケートに回答いただいた方から抽選で3名様に、ユーリとビヨルクより、シラカバの皮の手作りオーナメントをプレゼントします。

※いずれも大きさは3~4cmくらい、どれが届くかはお楽しみに。

応募方法

アンケートの回答を記入の上、住所・氏名・年齢・連絡先を明記の上、はがき、FAX、メールにてお送り下さい。プレゼントの当選は発送をもって替えさせていただきます。

応募締切 5/31(金) 当日消印有効

コープさっぽろ基金事務局

〒063-8501 札幌市西区発寒1条5丁目10番1号
FAX: 011-671-5743
メール: csap.k.asumori@todock.jp



携帯メールは こちらからどうぞ